

令和7年度 小金井市立緑小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

○「すすんで考え、関わり合いの中で学びを深めていく児童」を育成するために、導入を工夫し、児童に問いや疑問を抱かせることで、考えようとする土台を作る。関わり合いを通して、考えることの大切さを実感させ、深い学びにつながるようにしていく。

2 児童の現状分析

(1) 全国学力・学習状況調査

国語	○思考力、判断力、表現力は高く、問題に対し、考えを書くことはできている。漢字を使った言語の特徴や使い方に関する事項の正答率が低いため、日常的に既習した漢字を使うよう指導していく。
算数	○基本的な計算、グラフの読み取りなどはできている。問題を読む力や式やグラフから分かることを表現する力が低いため、授業の中で文章問題の難易度を工夫し、読み解く力を付けたり、表現力を高めるために解き方の説明や情報の分析を他者に伝えたりする時間を設ける。

(2) 児童アンケート

○ICTを活用した学習については前向きに学習をしている様子が見られる。
○中学年、高学年の児童は、読書量が少ないと感じている児童が一定数いる。
○得意な教科はめあてや問題に対し、「考えたい」という気持ちをもつことができる。しかし、苦手な教科に関しては、めあてや問題に対し、「考えたい」と前向きな気持ちにならない傾向がある。
○初めての事物・現象に出会った時や友達と意見が違った時、難しい問題について解いたり、調べたりする時に、「考えたい」という気持ちをもつことができると考えられる。

3 各教科等における授業改善の視点

国語	低学年	○話型や文型を提示し、自分の考えを書いたり発表したりできるようにする。 ○うなずいたり、ハンドサインを示したりするなどして、話を最後まで聞くことを意識させる。
	中学年	○児童が「知りたい」「考えたい」と思える教材や教具、導入の工夫を行うことで、前向きな気持ちで自信をもって自分の意見が発言できるようにする。 ○掲示物を活用して聞く視点を明確にし、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞き、質問や感想を話す活動を取り入れる。
	高学年	○「考えたい」という意欲を引き出すために、児童に十分に身に付いている活動から授業を始める。 ○話し合い活動では、相手の考えを受け止め自分の考えを深めるために、目的や立場を明確にさせる。
社会	中学年	○単元の終わりには新聞やポスター、ICT機器などにまとめる活動に取り組ませる。また、資料を読み取る力を高めるために、繰り返し練習の場を設けるなど丁寧に指導する。
	高学年	○資料から児童が見出した問題を基に、学習計画を構成できるようにする。その際、時事を絡めた単元計画を意識させる。また、学習内容を友達と共有することで多様な学習過程を踏めるようにし、児童がまとめ方を選択できるようにする。

算 数	低学年	○身近な場面から、具体物や図などを用いることで、数の表し方や計算の仕方、形の構成などについて「考えたい」という気持ちを高め、数理的な処理のよさを実感させる。
	中学年	○具体物を操作したり、日常の事象を問題場面に取り入れたりして、算数を身近に感じさせることで、児童の「考えたい」という気持ちを引き出せるようにする。 ○自分の考えを表す際、多様な表し方があることを知ることで、「次は別の方法で考えてみたい。」と次への意欲につなげる。
	高学年	○条件不足、条件過多など「なぜ?」「どうして?」が生まれやすい問題提示をしたり、既習事項との関連を意識して、「○○を使えば解決できそうだ。」と見通しをもたせたりして、児童の「考えたい」という気持ちを引き出せるようにする。 ○児童同士の関わり合いを通して、考え方の共通点や相違点を見付けたり、より良い考えに気付いたりするよう導いていく。
理 科	中学年	○事物・現象と生活体験や既習内容を関連付けて予想・仮説を考え、友達と交流することで、新たな発想で事物・現象を考えられるようにする。 ○予想と結果を比べて自分の考えをまとめる練習を重ね、適切な情報を使って児童自身で結論を導き出せるようにしていく。
	高学年	○事物・現象に対する経験や予想を基に学習課題を設定し、どのような実験結果になるかを推測しながら実験方法を考えることができるようにする。 ○実験結果から考察したことをノートやICT機器など、まとめる方法を選択して、他者に伝えることができるように指導していく。
生 活	低学年	○興味に応じた活動を選択させたり、気付いたことを交流できるような場を設定したりして、新たな気付きやよりよい工夫などを生み出せるようにする。
音 楽	低学年	○友達と音を合わせる活動を取り入れる。手拍子や楽器、リズム遊びなどをペアやグループで行い、相手の音をよく聴いて合わせる経験を通じて、音楽の楽しさと関わり大切さを実感させる。
	中学年	○「考えたい」「取り組みたい」という意欲を引き出すために、全児童が参加できる常時活動から授業を始める。 ○音楽に関する語彙を増やすために、語彙を教室内に掲示し、音楽によって喚起されたイメージや感情、思い、感じたことなどをICT端末、ペアやグループで伝え合い、興味関心を広げるようにさせる。
	高学年	○「考えたい」「取り組みたい」という意欲を引き出すために、全児童が参加できる常時活動から授業を始める。 ○自分の表したい音楽表現をするために、音楽を形づくっている要素を基に話し合ったり、表現したりできる場を設定して、深められるようにする。
図 画 工 作	低学年	○素材に触れながら発想を広げる導入を行う。そのために、実物や手触りのある素材を提示し、「どんなことに使えそう?」と問いかけることで、自分のイメージを広げ、考える意欲を高めていく。 ○友達の作品を見て気付きを共有する時間を設ける。そのために、作品を見合いながら「いいなと思ったところ」を伝え合い、自分では思い付かない発想や表現に気付く機会をつくる。
	中学年	○集中してやり抜く力をもてるように、材料の魅力を楽しめ、発展性のある題材を考える。デモンストレーションを行うなど、どんな学習をするのかイメージしや

		すい導入を行う。
	高学年	○やりたいイメージをきちんと持って、どのように表現していくか考えぬけるように、試しの時間の充実や、具体的な考えるポイントを示唆する。 ○アイディア・イメージの広がり共有するために、途中での友達の作品鑑賞を入れ、具体的に何がよかったのか言葉で置き換える。
家 庭	高学年	○日常生活に即生かせるよう、目的に合わせて家庭で事前に調べたり、学習したことを家庭で実践できたりするように計画する。また、ICT を利用して、技術面で即時実践ができるように指導する。
体 育	低学年	○体を動かすことの楽しさを知り、運動遊びにすすんで取り組む中で、だれとでも仲良く運動をすることができるようにする。勝敗を受け入れることが大切であることを話し、安全に配慮した場の設定を工夫する。
	中学年	○自分の能力に適した課題をもって運動に取り組めるように、学習カードや場の設定の工夫をする。また児童に友達の動きを見るとき視点について指導することで、主体的に学び合いができるようにする。
	高学年	○各種の運動の特性に応じた技能を身に付けたり、体力を高めたりできるよう、スモールステップでの学習過程を取り入れ、学習の高まりを感じさせる。
外国語	中学年	○フラッシュカードやチャンツ、デジタル教材等を活用することで、外国語活動に対する意欲を高めるとともに、基本的な語句や表現を用いて話すことができるようにする。
	高学年	○学習のゴールを示し、既習した表現や語句を用いて、コミュニケーションを行う必然性がある場面や状況を授業に取り入れる。インプット・アウトプットを繰り返し、言語活動の充実を図るようにする。
道 徳	低学年	○身近なできごとから問いを立てて考える。「こんなときどうする？」など、学校生活で起こりそうな場面を使って導入し、自分の経験とつなげながら考えることができるようにする。 ○役割演技やペア対話で多様な考えに触れる。登場人物になりきって演じたり、友達と気持ちを話し合ったりすることで、他者の立場で考える力や思いやりを自然に育てる。
	中学年	○導入の場面で、児童アンケートの結果や日常の場面を共有することで内容項目に対して一人一人が自分なりの課題をもち、主体的に考えられるようにする。
	高学年	○一人一人が考えをもって主体的に話し合いができるためには、まず「聴き合い」ができるようにする。児童が「考え、話し合いたい」と思えるように導入や展開の発問を工夫する。
総 合	中学年	○教科横断的な課題の設定、情報の収集や体験活動を多く取り入れることで、問題解決や探究活動に主体的に取り組んでいけるようにする。
	高学年	○地域人材の活用や、教科横断的なテーマ設定を図ることで、学習のための学習ではなく、自分たちのこれからの考え方や生き方を見直すための機会となるような生きた学習となるようにしていく。